

留学帰国報告書

氏 名 : 加藤 涼

留学期間 : 2016年9月～2017年5月

1. 出発前の準備（留学の目的、入学許可申請、外国語能力、留学費用、奨学金、ビザなど）

留学の目的

留学を志したのは、専門ゼミで学んだマネジメントの知識と学際ゼミで身に着けた英語力を純粋により伸ばしたかった為です。より具体的に言うと、今まで明治大学で学んできたことを将来グローバルな環境で実際に活かすためには、それらを英語で説明できるようにならないといけないと感じたということです。明治大学では英語とビジネスの両方を勉強してきましたが、英語“で”ビジネスを勉強してきたわけではありません。交換留学を通して、英語でマネジメントの知識を説明できるように、また将来それらを活用できるようになればなと思い留学を決意しました。

入学許可申請

商学部で協定校留学するには、履修予定表、学業成績表、英語スコア等の提出が必須で、これらを提出後、学部内で面接を受けます。履修予定表は、カーディフ大学のホームページを参考にし、作成しました。現地では秋学期・春学期合わせて120 credits（通年で授業を取る場合6科目）まで取得することができます。明治大学と単位の概念が違うのですが、10 credits（半期）と20 credits（通年）を組み合わせて履修の計画を立てます。現地ではほとんどの友人が通年科目を6科目履修していました。履修予定の参考にしてください。

学業成績については、一般的に交換留学に必要と言われるGPA3.0程度でした。申請時、大学間交換留学と違いGPAに関する記載がなかったことに気づきましたが、あまりにもGPAが低いと書類審査で落とされてしまうと思うので、なるべくGPAはなるべく高めを維持しておいた方がいいと思います。

英語スコアについては、カーディフビジネススクールへ留学する場合IELTS Overall 6.5が必要です。私は入学許可申請の際、IELTS Overall 6.0しか持っていませんでしたが、3月末までにOverall 6.5を取得するという条件付きで派遣候補生に選んでいただき、1月末に必要なスコアを取得し、留学に行く事が出来ました。カーディフ留学の難しい点は英語の4技能すべてをもれなく勉強しないといけない点です。具体的に言うと、Reading, Listening, Writing, Speakingの全てのセクションで5.5以上かつ全体で6.5を取得しなければいけません。TOEICと違い、マークシートでない点、試験対策に関する情報があまりない点から、私もIELTS対策は非常に苦労しました。参考になると思うので、私が使った参考書を幾つか紹介したいと思います。

- IELTSライティング完全攻略 塚本 亮 著 明日香出版社

過去にカーディフへ留学していた先輩に教えていただいたライティング専門の本です。難易度が高いとされるIELTSのライティングでは、同じ単語の使い回しを避けたり、エッセイの流れに沿って文章を書いたりする能力が求められるので、この参考書でどのように文章を書けばいいのか参考にしてください。また、一度自分が書いた原稿をネイティブに添

削してもらうことも非常に重要です。留学後もライティングの能力は必要です。

- **Cambridge IELTS 9, 10 Student's Book with Answers** Cambridge English 出版

私は 9 と 10 を使用しましたが、最新版で対策をするようにしてください。実際のテストの形式を学ぶことが出来るので優れた参考書だと思います。

- 英検準 1 級 である準パス単 旺文社出版

IELTS 用の単語帳が他の出版社から出ているのでそちらを使ってもいいと思います。私は新しく単語帳を買うのが勿体ないと思ったので、元々持っていたこの単語帳を使用しました。しかし IELTS の Reading セクションを解くには少し不十分かなと感じたので、Reading で高得点を取りたい人はよりレベルの高い単語帳を購入してください。私がこの単語帳を評価する理由は、載っている単語を“使える”ようにすることで Writing, Speaking で要求されるスコアを取得することが出来ると思うからです。これは Writing, Speaking の採点基準の中に高難度のボキャブラリーを適切に使えるかどうかという項目があるからです。準 1 級以上のボキャブラリーは当時覚えていませんでしたが、Writing, Speaking の両方で 6.5 点を取ることが出来たので、この単語帳を完璧にすれば十分だと思います。見て意味がわかるレベルではダメです。“書ける、話せる”レベルまで勉強してください。

- **QQ English**

これは参考書ではありません。スカイプを使ってフィリピン人の先生と英会話の練習ができるサイトです。月額 4000 円くらいで非常に安かったです。ゼミの先生の勧めで始めましたが、非常に効果があったと思います。癖のあるフィリピン英語で練習になるのかと思うかもしれませんが、ここで大事なことは話すことです。

また、留学中はネイティブのみならず様々なアクセントを持った人と喋らなければいけない機会があるので、ネイティブ以外のアクセントに触れるという点からも有益かなと思います。

留学費用

留学費用は、9 か月間で約 170 万円程です。ちなみに、イギリスはカード文化なので支払いはカードが多かったです。私はキャッシュパスポートと呼ばれるデビットカードとクレジットカードの 2 枚を主に使っていました。

ビザ：約 10 万円

航空券：約 15 万円（カタール航空のもの）

保険：約 10 万円（明治大学指定のもの）

教科書：必要ありませんでした

家賃：9 か月間で £ 4400 だったので約 60 万円（一括で払う方法と、3 回の分割で払う方法があります）

食費：自炊をあまりしなかったため約 30 万円（外食は少し高い）

交通費：徒歩で移動できるのでカーディフ内ではかかりませんでした

交際費：約 15 万円（飲み会など）

旅行等：約 30 万円（長期旅行中のヨーロッパ旅行等）

奨学金

JASSO 奨学金、明治大学父母会、明治大学留学経費助成金を頂きました。どれも成績の基準がありますが、返還不要です。これらの奨学金のおかげで非常に有意義な留学生活を送るこ

とが出来ました。

ビザ

ビザについては、ネット上に情報がたくさん載っています。しかし、毎年いろいろと変更があるようです。常に最新の情報をチェックしてください。**Tier4** と呼ばれるビザを取得することになると思います。私は個人で申請しなければならず不安だったため、ブリティッシュカウンシル主催の英国留学前オリエンテーションに参加してビザに関する情報を入手しました。そこでビザに関する質問ができるブースがあったので、ぜひ利用してみてください。

2. 協定校での諸手続き

BRP と呼ばれる在留許可カードを受け取る必要があります。僕は受け取り先をカーディフ市内の郵便局にしたため場所かわからず困りました。友人は大学内で受け取るように手配したようなので、ぜひ調べて手配するようにしてみてください。

学期前にオリエンテーション（参加必須、しなければいけないことが全てここでアナウンスされる）があるので詳しくは書きませんが、銀行口座の開設（希望者のみ）、**GP** と呼ばれる開業医への登録、学生証の発行などがあります。どれも現地ですることですので出発前は気にしなくて大丈夫です。

3. 協定校のカリキュラム・履修した授業、課外活動、留学の成果

交換留学生はマネジメント、アカウンティングといったコースに関係なく好きな授業を基本的に履修することが出来ます。また、学部外の授業を受けることもできます。私が履修した科目は **International Management, Marketing and Strategy, Organisational Behavior, International Business, Managing People**, 学部外の **Spanish** です。ビジネスの科目は5つとも通年の科目でスペイン語は秋学期のみの科目でした。明治大学ではマネジメントの科目のみを履修していたので、知識の幅を広げるためにマーケティングを勉強したり、興味があったが明治では開講されていなかった組織論についても学んだりしました。

イギリスの科目（モジュール）はレクチャーと呼ばれる講義（基本的に2時間、間に休憩が10分くらい）と数週間に1回のチュートリアル（時間、頻度は講義によって様々）と呼ばれるゼミ形式の授業の2つで構成されます。レクチャーは大教室で皆一緒に講義を聞き、チュートリアルでは15-20人の少人数で、それまでの授業の内容の復習や応用をしてケーススタディを解くといった流れです。即席でプレゼンテーションを作らなければならなかったり、かなりの量のテキストを読み込んでから参加しなければいけなかったり、チュートリアルは大変なことが多かったです。

課外活動は主にソサエティと呼ばれるサークル単位で行うと思います。オリエンテーションの時に様々なソサエティがブースを設けて勧誘をしていると思うので何か興味があるものに参加してみるといいと思います。サッカーやハリーポッターソサエティなど沢山あります。

ソサエティでの活動ではありませんが、私はネイティブと過ごす時間をなるべく増やすために日本語を勉強しているイギリス人の友達を作り、結構な頻度で遊びました。クリスマスには実家にも連れて行ってくれて、非常に貴重な経験が出来たと思います。

留学の成果としては、エッセイや試験対策を通して、物事を論理的に考える力が付いたと思います。また、ヨーロッパで展開している企業についても少し詳しくなれたかなと思います。語学面は、講義だけでなく、日々の生活でも英語を使う必要があったのでかなり上達したのではないかと思います。また、9 か月間という長い留学生活の中モチベーションを切らさないようにするため、英検 1 級を目標として掲げ、語学力向上に努めました。結果、1 次試験をイギリス滞在中に合格することができ、自分の成長を感じることが出来ました。

4. 帰国準備と帰国後の手続き

帰国準備は特にすることが無かったです。5 月の頭に期末試験が始まり、退寮のシーズンになると寮に不要なものを寄付するスペースが出来ます。ドライヤーや食器など日本に持ち帰らないものはそちらに寄付しました。帰国後は交換留学の報告書、奨学金受給者が書かなければいけない書類などを提出します。

5. 商学部生へのメッセージ

私が皆さんに伝えたいことは、海外留学を考えているならなるべく早く決断して行動してほしいということです。私の場合は費用面等で悩み、決断を先延ばしにしてしまい、飛び出すのがすごく遅くなってしまいました。なぜ早いうちから決断してほしいかというと、もちろん英語のスコアの対策に時間がかかるため、早くから取り組まなければ留学実現が困難であることもそうですが、早いうちから海外という厳しい状況に自らを置き、その中で考え、沢山の事を経験し、成長してもらいたいからです。現地学生の勉強に対する姿勢や、第 2 言語なのにも関わらず堂々と発言するヨーロッパ圏の学生はとても刺激になります。最初はとても大変な思いをするかもしれませんが、それを乗り越えた先に言葉では表せられないくらいの達成感が待っています。カーディフ留学についてわからないことがあれば何でも聞いてください。私が先輩方にして頂いたように、IELTS 対策等含め何かサポートが出来たらなと思います。

【派遣留学生として選ばれた人へのアドバイス】

留学生生活を存分に楽しむためには、出国前の準備が非常に重要です。特に皆さんには留学中にしかできないことに時間を割いてもらいたいので、日本で準備できることはなるべくして、それから留学に臨んでいただきたいと思います。カーディフ留学に要求される IELTS のスコアは 6.5 ですが、これでは現地で非常に苦労します。派遣留学生として選ばれた後も、それまで以上に英語の学習に力を入れていただきたいと思います。